

海東英和県議会議員事務所

〒520-1501 高島市新旭町旭1-8-5 電話 0740-25-0777 FAX 0740-25-0778
Mail : web_info@hi-kaito.com ホームページ http://hi-kaito.com



2015.10.18 「びわ湖高島栗マラソン」 2 kmの部スタート！(マキノ町)
JK(女子高生)も参加しましたよ

メタセコイア並木道の除雪・融雪

解決法が研究される

県道小荒路マキノ沢線（メタセコイア並木道）の除雪・融雪のままだら状態については、住民の皆さんのがんばりで、改善を申し入れました。同じく「びわイチ」（自転車で琵琶湖一周）はじめ観光面での課題も出てきました。雪対策と交通安全対策について、特に県の責任分野に対してもしっかりと対応されるよう要望しました。

また、除雪時の雪の塊が接続する道路の口を塞がないよう、住民の高齢化の様子なども説明し、除雪への配慮もお願いしました。

一定の理解が得られ、除雪業者への要請も約束いたしました。



これまで通りの理系文系の学習が保証されるよう、少人数学習や人事的にも配慮すると県教育長から意向が示されました。

引き続き高島高校のSGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）、安曇川高校の

多面的な検討を要請しました。賀の傾向を克服するチャレンジが必要です。

南北低傾向に陥りやすい滋賀の傾向を克服するチャレンジが必要です。

今後、前向きな高島・安曇川高校への支援や経営方針を問うとともに、体育やIT、高島市の特性を生かした農水産業、発酵・食品、芸術や介護・福祉分野など、実社会でより役立ち、誇りをもてる学科の創設など、多面的な検討を要請しました。

南高北低傾向に陥りやすい滋賀の傾向を克服するチャレンジが必要です。

県教委の人事と政策の結果であり、無策な削減は良き未

定は、2年連続定員割れで、安曇川高校の普通科2クラスを1クラスにす



藻刈りまつかと空高し
(年4回の針江大川そうじ)

これまで通りの理系文系の学習が保証されるよう、少人数学習や人事的にも配慮すると県教育長から意向が示されました。

引き続き高島高校のSGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）、安曇川高校の

琵琶湖の民の受け継いできた暮らしが「祈りと暮らしの水遺産」として日本遺産に選定されました。機を一にして県立近代美術館を中心化していきたいとして、今般、県立近代美術館の増築改修を約60億円の予算で進めています。

近代美術と仏教美術とアート

SSSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）への取り組みも強めています。

また学校の充実には、長浜市などが先導的に取り組まれている「コミュニティースクール」という地域の方々の参

加による方法があります。多くの目でいじめをなくし、学習の補助や課外活動を支援し、学校運営に協力して、生徒の個性が伸びやかに育つ環境づくりを地域の力ですすめていけるよう協議します。

くの目でいじめをなくし、学校運営に協力して、生徒の個性が伸びやかに育つ環境づくりを地域の力ですすめていけるよう協議します。

くの目でいじめをなくし、学校運営に協力して、生徒の個性が伸びやかに育つ環境づくりを地域の力ですすめていけるよう協議します。

新しい「寄付税制」への提案

公益を増進する「寄付文化」を醸成しよう

公益法人制度が改正され、官だけでなく民による公益の増進が、豊かな社会への推進力として、大いに期待されます。

滋賀県はNPOなどが活発なので、公益法人制度等を活かし寄付文化を醸成していくことが望れます。

2024年国体に向けて資金集めの活動も始まり、ファンドレイザー（寄付募集担当者）を置くなど積極的に取り組むことを提案しました。

研究して取り組みを検討するところと答弁。12月に全庁挙げて収入確保に取り組む組織の立ち上げが決定、動き出しました。

「高浜原発」苦渋の再稼働

国道161号バイパスの早期完成、港湾の整備と安全対策の徹底を



関西電力高浜原子力発電所が再稼働に動き出しました。

件下にあります。心配はつきません。また、避難路となる国道16号バイパスの早期完成や、港湾の整備も喫緊の課題です。

福島の原発事故調査も事故実態の把握も曖昧なままであります。運転から40年になろうとする老朽原発での多重防護体制も十分確認されず、まして我々風下の住民の「避難計画」も実効性が低いと思われる中で、再稼働は容認できないと訴えて参りました。

放射性廃棄物の処理する自途が立つてない点も指摘され、再稼働を容認できる状況にないとの立場を明らかにされています。

交付金はじめ原発立地県との扱いの違いは絶大です。被害が及ぶ可能性の高い高島、長浜市

ねだるだけでは、実現はできません。メタセコイア並木から白鬚さんまで、多数の傑作スポーツを有する高島市を写真の聖地にしていく！活動を広げ、深め、高めていきましょう。

賀づくり」にも取り組んでおり、松尾芭蕉から、白洲正子、水上勉、司馬遼太郎ら各氏の眼差しと共に通する深い味わいを表現してきました。

そんな風韻の残る河西・湖北の暮らしと文化を活かすため「美の滋賀づくりと観光振興」をテーマに、米原駅から湖北の観音の里を巡り、湖北の自然や重要文化的景観地域を訪問する「ツアーやを提案しました。さらに、河西の美の拠点となるべく、高島に写真美術館を、と訴えました。

一億総写真家時代といえるほど、スマホや携帯で写真世界を

古代ロマンが光を放つ高島



春分・秋分の日、お日さまは富士山、伊吹山、竹生島を一直線に射し、わが高島の日置前あたりを走り、出雲大社へと貫く。この北緯35度25分の線上は古より「太陽の道」と云われている。私たちほどんなり励ましを受取れるのだろう。3月20日晴れたらいいね。

H27.9.21撮影

安曇川高校の普通科が1クラスに